

「年間第25主日」2020年9月20日「一緒に祈りましょう」

皆様、
主の希望、信頼、平和のうちに、信仰はわたしたちの盾です。

お知らせいたします。 ミサに出席出来ないが御聖体を頂きたい方には三つ方法があります。

- A- キリスト者の親族または知り合いが、司祭より「聖体拝領奉仕者」の指名を受け、自分が参加しているミサで「御聖体箱」に御聖体を受け、聖体拝領希望者のところへ持参して、一緒に祈り、御聖体をいただくことが出来ます。
- B- アントワン神父と連絡をとり(080-4176-1992)、司祭が家庭訪問を行い、一緒に祈り、御聖体を頂くことが出来ます。
- C- 平日に教会に来られる方は司祭より御聖体を頂くことができます。

9月20日は、「**年間第25主日**」です。

今日も二回だけミサがありますが、皆さんは参加することが出来ないので一緒に心をあわせて、祈りましょう。

時間がある時は、一本のろうそくをつけて、沈黙し、十字架のしるしをゆっくり行いましょう。

「聖書と典礼2020.9.20」をお持ちであれば、その流れに従って、次にあるコメントを自由にお使い下さい、少なくとも、聖書を開いて、第一朗読イザヤ預言書55.6-9と、「答唱詩編」145(144)、第二朗読使徒パウロのフィリピの教会への手紙1.20c-24、27aと、マタイによる福音20章1-16節を読み、個人的に黙想し、神のみ言葉についての分かち合い/共同祈願を行いましょう。

コメント アントワン神父

I- 第一朗読イザヤ預言書55.6-9 について

イザヤは神の道と思いが、私たちの道と思いを高く超えていても「近くにいますように」と、教えた預言者です。神は近くにおり、憐れみ、親の愛情、恵みにあふれている。イザヤは神に立ち帰るように、ユダヤ人に強く預言しました。

II- 「答唱詩編」145(144) について

賛辞の詩編です。熱心なユダヤ人は毎日朝に、「始まりの祈り」としてこの詩編を唱えます。「あなたは恵みと憐れみに満ち、(...)。その恵みは全ての者に及び、...」の「恵み」というヘブライ語は「愛情」の意味を持っています。「心から祈る人のそばに神はおられる」の「人」はユダヤ人だけではなく、「全ての人」という意味です。預言者イザヤがユダヤ人に最初に教えました。数百年後、捕囚時代の後、この詩編は神の恵み、愛情のもっと普遍的なヴィジョンを示すようになります。

イエスも同じようにこの詩編を唱え、創造主である御父に感謝しました。私たちがイエスと心を合わせて、「神のいつくしみは造られた全ての上にある」と言う賛辞を唱えましょう。

III- 第二朗読使徒パウロのフィリピの教会への手紙1.20c-24、27aについて

当時、使徒パウロはエフェソ(?)の牢に囚われていました。彼が釈放されるのか、死刑にされるのか、分からなかったので、宣教活動のことを心配していました。「肉(生きる)にとどまる方が、あなたがたのためにもっと必要です。」はその意味の言葉です。実は使徒パウロは釈放されて、宣教活動を続けることが出来ました(使徒言行録20章から)。

IV- マタイによる福音 20章 1-16節 について

イエスは天の国について例え話で教えます(マタイ13章)。今回は労働活動に関する話です。「ある家の主人」で「家」は現在の世界、主人が父である神です。「ぶどう園」は、神の民、教会共同体です。神は自分の民のために働く人を探しています。「み国がこの世に来られるために」。「働く労働者」とは 司祭・助祭・修道者で召命を考えることが出来ますが、洗礼を受けたすべての信徒たちも、使命のために神に呼ばれているのです。

例え話によると、神が与える仕事、使命は、「天の国が来られるように」するためのものしかありません。(マタイ19.21「イエスは言われた「もし完全になりたいのなら、行って持ち物を売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に富を積むことになる。それから、私に従いなさい。」/マタイ4.18-22「二人はすぐに網を捨てて(イエスに)従った。」)。

「一日につき一デナリオンの約束で」とは、「永遠の命」です。古い信者とか、新しい信者とか、「長い永遠」とか「短い永遠」とかはありません。もう一つ、共同体の「同」とは皆さんが神から同じように愛されていることで、「一デナリオン」とは神がほとんどただで与える恵み、あるいは、御聖体、赦しなのです。世俗では価値がないもの、割引やボーナスがないものです。

「何もしないで広場に立っている人々」とは、神を知らない人、福音を聞いたことがない人、信仰の道を歩まない人などです。

わたしたちは洗礼によって天の国の国民権を持っています。私たちの天の国の憲法は福音です。「天の国が来られるように」するために神が与えた仕事、使命に協力しましょう。

「ただで受けたのだから、ただで与えなさい。」

(沈黙、分ち合いか/共同祈願か)

次に、祈りましょう。(ミサの集会祈願)

「いつも近くにおられる神よ、あなたの思いはすべてを超えてすべてに及び、いつくしみの深さは計り知れません。今日一つに集まって神に心を向けるわたしたちが、すべてにまさる神の愛を悟ることができますように。

聖霊の交わりのなかで、あなたとともに世に生き、支配しておられる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。」

最後に 十字架のしるしをゆっくり行いましょう。「父である神様に感謝」。
新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈りを一緒に祈りましょう。(別紙)

新型コロナウイルス感染症に苦しむ世界のための祈り

いつくしみ深い神よ、
新型コロナウイルスの感染拡大によって、
今、大きな困難の中にある世界を顧みてください。

病に苦しむ人に必要な医療が施され、
感染の終息に向けて取り組むすべての人、
医療従事者、病者に寄り添う人の健康が守られますように。

亡くなった人が永遠のみ国に迎え入れられ、
尽きることのない安らぎに満たされますように。
不安と混乱に直面しているすべての人に、
支援の手が差し伸べられますように。

希望の源である神よ、
わたしたちが感染拡大を防ぐための犠牲を惜しまず、
世界のすべての人と助け合って、
この危機を乗り越えることができるようお導きください。
わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。

希望と慰めのよりどころである聖マリア、
苦難のうちにあるわたしたちのためにお祈りください。

(2020年4月3日 日本カトリック司教協議会認可)

Prayer for the World Suffering from the New Coronavirus Pandemic

O loving God,
Look kindly upon the world, now in great difficulty
Through the spread of the new coronavirus.
May necessary medical care be given to those who suffer from the
disease.
Guide those who work toward ending the infection.
Protect all healthcare workers and all those who care for the sick.
Welcome the deceased into your eternal kingdom.
Fill them with everlasting peace.
May hands reach out to help everyone facing anxiety and confusion.
God, the source of hope,
Guide us in this crisis
That we may spare no sacrifice to prevent the spread of the infection,
That we may serve everyone in the world,
We ask this through our Lord Jesus Christ. Amen.
Mary, source of hope and comfort, Pray for us in this hardship.

(Approved by the Catholic Bishops' Conference of Japan, April 3, 2020)